

第399号 (令和5年1月10日(火)発行)

発行所

京都女子大学 宗教部

京都市東山区今熊野北日吉町35  
電話 075 (531) 7074



おのが罪過 あやまちを  
教え諭して くれる人  
かれこそ すくれた友にして  
もしその人に したしめば  
かかれた宝を 知るように  
かならず善の 実りあり

「ダンマバダ」七六  
京都女子大学「聖典」  
一〇七頁



# 自由の味

現代社会学部教授 藤井隆道

## 自由を目指す宗教

現代人、特に若い人が、  
宗教を分りにくいと感  
じる一つの理由として、  
その目指すところが何で  
あるかが分りづらかつ  
たり、また価値あるもの  
と感ぜられない、という  
ことがあるように思われ  
る。たとえば仏教は「悟  
り」を求めるという。け  
ど、そもそも悟りって何  
だろう、別にそれはいら  
ないかな、というふうに  
考えてしまう。「涅槃」  
すなわち平安の境地につ  
いても同様である。

ところで「悟り」や「涅  
槃」と並んで、仏道の目指  
すところを表現する言葉  
として古くより仏典でよ  
く用いられるのが「解脱」  
(vimukti, vimutti) の  
語である。この言葉の基  
本的な意味は「解き放た  
れること」である。これ  
をいま思い切って「自由」  
と理解してみよう。する  
と仏教は、自由を目指す  
宗教だということにな  
る。どうであろうか、仏  
教が少し身近に感ぜられ  
ないだろうか。

にやりたいことができ  
る、あるいは欲しいもの  
が手に入る、といった状  
態をイメージする人が多  
いであろう。しかし仏教  
は古くから、こうした自  
由がいわば幻想にすぎな  
いことを説いてきた。何  
でも思い通りにしたいと  
いう思いとは裏腹に、あ  
らゆる物事は刻々と変異  
し滅しゆくのであり、思  
い通りにはならず、その  
ため人は苦悩を抱え込ま  
ざるをえないというの  
が、仏教の基本的な現実  
認識である。

解き放たれることを目  
指すということは、仏教  
は現状を、何かに縛られ  
たものとみているという  
ことである。何が私たち  
を縛るというのだろうか  
か。たとえば、真宗僧侶  
で仏教学者であった仲野  
良俊師は次のような言葉  
を残している。

を縛るものを、私たち自  
身の心のうちに見出して  
いくのである。

「三誓偈講話」  
モノへの飽くなき執着  
から身動きがとれなくな  
る、そんな現代人のすが  
たを言い当てるこの言葉  
は、仏教的な洞察を示し  
ている。仏教は、私たち

おほくひまなくして、  
臨終の一念にいたる  
まで、とどまらず、き  
えず、たえず

「一念多念文意」  
もし、命を終えるその  
ときまで煩悩を捨てるこ  
とができないなら、仏教  
の説く自由は、結局絵に  
描いたモチなのではない  
か、と感ぜられるかもしれ  
ない。仏道は自由を求め  
る確かな道であることも  
に、自由を実感しながら  
歩むことができる道でも  
ある。

そねみ、ねたむころ  
おほくひまなくして、  
臨終の一念にいたる  
まで、とどまらず、き  
えず、たえず

「二念多念文意」  
もし、命を終えるその  
ときまで煩悩を捨てるこ  
とができないなら、仏教  
の説く自由は、結局絵に  
描いたモチなのではない  
か、と感ぜられるかもしれ  
ない。仏道は自由を求め  
る確かな道であることも  
に、自由を実感しながら  
歩むことができる道でも  
ある。

に私には思われる。  
学びで生きる仏教

煩悩は仏教の人間観の  
中心をなすものであり、  
仏教にはその多様なあり  
方が説かれている。三毒  
にさらに慢・疑・見とい  
う三つの煩悩を加えると  
六種の根本煩悩となる。  
このうち「慢」とは他人  
との比較から自分を特別  
だと思ひやす心の働きで  
あり、「見」とは種々の  
誤った見解にとられる  
ことである。他人との比  
較に過度に気をとられた  
り、また自身の見解に固  
執したりすることから、  
私たちの心の自由が奪わ  
れるということは、皆さ  
らにも実感できるのでは  
ないだろうか。

とらわれを離れること  
を目指す仏教の精神に触  
れるなかで、自身の固定  
観念やあるいは偏見と  
いったものを問い直し、  
自分の殻に閉じこもるこ  
となく、オープンに知見  
視野を広げようとする心  
がけを持つことができれ  
ば、そうした姿勢は、きつ  
と大学での学びのなかで  
も生かされることだろ  
う。

「親鸞聖人は、一生のあ  
いだ煩悩を捨てること  
ができる人間が歩むこと  
ができる仏道を明らかに  
した。

された。そのことについ  
ては、三回生の仏教学の  
授業でしっかりと学んで  
いただきたい。聖人は、  
物事に執着しとらわれて  
ばかりの私たちを解き放  
つ阿弥陀如来の智慧の光  
のはたらきを讃嘆し述べ  
られている。

「おほいなるもの」とは、  
阿弥陀仏のことである。  
その力に導かれて明らか  
になることは、自らの歩  
みの危うさである。どこ  
までも煩悩に振り回され  
る危うさと、そのような  
自己を捨てることのない  
阿弥陀仏への思慕が表さ  
れた信仰の歌である。

武子は一八八七年、本  
願寺第二十一代明如(大  
谷光尊)の娘として生ま  
れた。幼い頃から仏教に  
親しみ、二十二歳で九条  
良致と結婚、ロンドンで  
義姉大谷篤子とともに婦  
人参政権運動に接し、そ  
れ以降、女性の高等教育  
の実現に尽力した。紆余  
曲折を経て、本学の直接  
の前身校である京都女子  
高等専門学校が設立され  
た。さらに一九二三年の  
関東大震災では、自らも  
被災する一方で被災者の  
救援に尽力し、その一端  
が現在も病院や幼稚園と  
して継承されている。

社会的にみれば武子は  
成功者である。しかしそ  
れは、阿弥陀仏によつて  
照らし出された、おほつ  
かない自己を見つめなが  
らの歩みであった。

親鸞は、私たちの煩悩  
の根深さは、今このいの  
ちだけの現実ではなく、  
永遠の過去から続くもの  
だと受け止めた。武子も  
また詠う。「あわれわれ  
生々世々の悪を知らず  
慈眼のまえに なにを甘ゆる  
る」。深い自己洞察と阿弥  
陀仏に出遇った者の力強  
さが感じられる。

来る二月七日は武子の  
命日である。(義)

## 京女への通学路 いまむかし

### ⑦ S校舎3階のステンドグラス



S校舎とF校舎、そ  
れに仮設の事務棟が  
建っているところには、  
ステンドグラスが目  
引いたモダンな住宅が  
立ち並んで居ました。  
その佇まいは、わずか  
にデザイン研究所に見  
ることが出来ます。写  
真のステンドグラスは、  
S校舎3階の東側、S  
309演習室の両脇に  
嵌められているもので  
す。気づいていましたか  
もともとこのステン  
ドグラスは、一九二七  
年に建てられた深田邸  
の応接間にあったもの  
です。一九四〇年に深  
田邸は近藤氏に譲渡さ  
れました。屋根瓦の色  
と形から、近藤邸は  
「チョコレートハウス」  
と呼ばれていました。  
その後近藤家では甲斐  
和里子の姪の息子にあ  
たる人が戸主となり、  
学園の理事を務めてい

たそうです。そうした  
ご縁もあつたからで  
しょう、学園がその敷  
地を取得し、建物を取  
り壊し、S校舎ができ  
たわけです。二〇〇〇  
年のことでした。  
建築に際して学園か  
ら施工業者に対して、  
近藤邸にあったステ  
ンドグラスを活用してほ  
しいとの注文があつた  
のでしよう、S校舎に  
はこの他にもステンド  
グラスがたくさんあり  
ます。探してみましょ  
う。  
問題は、本来のステ  
ンドグラスは、写真の  
ように水鳥が向かい合  
う意匠となつていたの  
ですが、S校舎ではな  
ぜかそっぽを向いて  
いることです。何事にお  
いても、新たなものを  
作り出すに際しては、  
過去の事実と向き合う  
ことが肝心なようです。  
(史学科・坂口満宏)

